

(様式第1号)

令和 元年 6月 30日

認定介護福祉士認証・認定機構
理事長 大島 伸一 様

領 域 名 : リハビリテーションに関する領域
科 目 名 : 生活支援のためのリハビリテーションの知識
単 位 数 : 2単位

認証申請する研修の名称 : 生活支援のためのリハビリテーションの知識 (認定介護福祉士養成研修)

団体名 : 一般社団法人愛知県介護福祉士会
団体事務所の所在地 : 〒 460-0001
愛知県名古屋市中区三の丸1丁目7-2 桜華会館内
電話 : 052-202-8260
FAX : 052-202-8280
E-mail : info@aichi-kaigo.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者 : 会長 下山久之 印
申請責任者 : 下山久之

記

○認定介護福祉士研修認証申請書 (別紙1～3)

<機構使用欄>

受付	
確認	
委員付託	
追加連絡	
評価報告	
理事会承認	
認証番号	

(別紙1) 認定介護福祉士研修認証

※申請受付番号 _____

(※は記入しないでください)

認定介護福祉士研修認証申請書

申請年月日	2018年10月31日
申請団体名	一般社団法人愛知県介護福祉士会
申請団体代表者氏名	会長 下山久之
申請責任者職名 申請責任者氏名	会長 下山久之 下山久之
団体住所 同 Tel・Fax メールアドレス	〒460-0001 愛知県名古屋市中区三の丸1丁目7-2 桜華会館内 Tel : (052)-(202)-(8260) Fax : (052)-(202)-(8280) E-mail <u>info@aichi-kaigo.jp</u>
申請対象の領域	領域名 : リハビリテーションに関する領域
科目名 (単位数)	科目名 : 生活支援のためのリハビリテーションの知識 (2単位)
申請する研修名	生活支援のためのリハビリテーションの知識 (認定介護福祉士養成研修)
研修認証実績	年 認証番号 ()
	年 認証番号 ()
	年 認証番号 ()
その他特記事項	

(別紙2) 認定介護福祉士研修認証

認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	リハビリテーションに関する領域	
科目名	生活支援のためのリハビリテーションの知識	
(1) 提供する研修について		
研修名	生活支援のためのリハビリテーションの知識 (認定介護福祉士養成研修)	
研修目標	リハビリテーションの理念や知識を活用し、リハビリテーション職種と連携しつつ生活を支援することができる力を習得する。	
到達目標	<p>① リハビリテーションの理念と ICF (国際生活機能分類) の考え方を理解し、生活リハビリテーションの視点を持つことができる。</p> <p>② 関節、骨格筋、神経などの構造に関する知識を活用して運動学的に分析・評価する視点を持つことができる。</p> <p>③ 病的な状態であっても、可能な動作を考え、支援することができる。</p> <p>④ 心理的な知識・技術 (人間関係論・コミュニケーション手法等) を活用し、利用者の意欲を引き出す視点を持つことができる。</p> <p>⑤ リハビリテーション職種と連携・協働を行うために必要な視点や知識を習得し、連携・協働できる。</p>	
研修内容 (研修プログラム)	含むべき内容	研修プログラム
	<p>課題学習 (8 時間)</p> <p>1. リハビリテーションの理念 (1 時間)</p>	<p>課題学習 (8 時間)</p> <p>1 リハビリテーションの理念 (1 時間)</p> <p>テキスト『リハビリテーション概論』『リハビリテーション医学第 4 版』を読み、課題に取り組む。</p> <p>○リハビリテーションの歴史と定義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の由来、歴史、定義 <p>○障害の分類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害とは、ICIDH、ICF、国際障害者年、ノーマライゼーション <p>○リハビリテーションの分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育的リハ、社会的リハ、医学的リハ、職業的リハ、等 <p>○リハビリテーション専門職の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハ専門医、リハ専門看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士、義歯装具士、ソーシャルワーカー等 <p>○リハビリテーション関連法規</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士法、身体障害者福祉法、障害者総合支援法、介護保険法、地域包括ケアシステム、等

<p>2. 心身の評価とアプローチ (1時間)</p>	<p>2 心身の評価とアプローチ (1時間) テキスト『リハビリテーション概論』『リハビリテーション医学第4版』を読み、課題に取り組む。自分自身の身体と自職場の利用者に即し、理解を深める。 ○意識、運動障害、感覚障害、高次脳機能障害、心理障害、日常生活動作についての評価の方法、アプローチについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意識：JCS、GCS ・運動障害：麻痺（SIAS Brunnstrom Stage）、筋力（MMT）、関節可動域（ROM）、筋トーマス（MAS） ・感覚障害：感覚（各種感覚評価） ・高次脳機能障害：言語、失行、失認、注意障害、記憶障害 ・心理障害：心理評価 ・日常生活動作：バーセルインデックス、FIM、APDL
<p>3. 各日常生活動作における各関節・筋の運動、および上肢・体幹・下肢の総合関係 (2時間)</p>	<p>3 各日常生活動作における各関節・筋の運動、および上肢・体幹・下肢の総合関係 (2時間) テキスト『リハビリテーション概論』『リハビリテーション医学第4版』を読み、課題に取り組む。自分自身の身体と自職場の利用者に即し、理解を深める。 ○日常生活動作と運動学（運動動作）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的動作（寝返り、起き上がり、歩行）、姿勢（座位、起立、立位） ・更衣、食事（摂食・嚥下）、排泄、入浴、整容
<p>4. 運動学的視点を生活支援に活かす考え方 (1時間)</p>	<p>4 運動学的視点を生活支援に活かす考え方 (1時間) テキスト『リハビリテーション概論』『リハビリテーション医学第4版』を読み、課題に取り組む。自分自身の身体と自職場の利用者に即し、理解を深める。 ○運動学的視点（ボディメカニクス）からの生活支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本動作（寝返り、起き上がり、歩行）、姿勢（座位、起立、立位）と生活支援

<p>5. 生活支援の中で活かすリハビリテーションの視点 (1時間)</p>	<p>5 生活支援の中で活かすリハビリテーションの視点 (1時間) テキスト『リハビリテーション概論』『リハビリテーション医学第4版』を読み、課題に取り組む。自分自身の身体と自職場の利用者に即し、理解を深める。 ○運動学的視点 (ボディメカニクス) からのリハビリテーション ・基本動作 (寝返り、起き上がり、歩行)、姿勢 (座位、起立、立位) とリハビリテーション ○自立支援に向けた介護予防 (重度化予防、生活動作の維持) ・介助方法の選択、補装具の使用、福祉用具の使用、等</p>
<p>6. 心理的な理解を生活支援に活かす考え方 (1時間)</p>	<p>6 心理的な理解を生活支援に活かす考え方 (1時間) テキスト『リハビリテーション概論』『リハビリテーション医学第4版』を読み、課題に取り組む。自分自身ならびに自職場の利用者に即し、理解を深める。 ○精神的な支援 ・人間関係論 ・人間発達論 ・社会的発達論 ・傾聴 ・アサーション</p>
<p>7. リハビリテーション職種との連携・協働を行うために必要な視点と知識 (1時間)</p>	<p>7 リハビリテーション職種との連携・協働を行うために必要な視点と知識 (1時間) テキスト『リハビリテーション概論』『リハビリテーション医学第4版』を読み、課題に取り組む。自職場における取組を振り返りつつ、理解を深める。 ○連携、協働 ・コミュニケーション技術 ・多職種連携 ・コーチング、ティーチング</p>

<p>集合学習（12 時間）</p> <p>1. リハビリテーションの理念（1 時間）</p> <p>2. 心身の評価とアプローチ（1 時間）</p>	<p>集合学習（12 時間）</p> <p>（1 日目）</p> <p>8：45～9：00 オリエンテーション</p> <p>9：00～9：45 担当：阿部</p> <p>1 リハビリテーションの理念（1 時間。ただし1 時間を4 5分として換算する）</p> <p>テキスト『リハビリテーション概論』『リハビリテーション医学第4 版』について講義形式での解説後、課題を基にグループワークを行う。</p> <p>○リハビリテーションの歴史と定義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の由来、歴史、定義 <p>○障害の分類</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害とは、ICIDH、ICF、国際障害者年、ノーマライゼーション <p>○リハビリテーションの分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育的リハ、社会的リハ、医学的リハ、職業的リハ、等 <p>○リハビリテーション専門職の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リハ専門医、リハ専門看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士、義歯装具士、ソーシャルワーカー等 <p>○リハビリテーション関連法規</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士法、身体障害者福祉法、障害者総合支援法、介護保険法、地域包括ケアシステム、等 <p>●導入講義 15 分</p> <p>●演習 20 分</p> <p>●フィードバック講義 10 分</p> <p>9：45～10：30 担当：阿部</p> <p>2 心身の評価とアプローチ（1 時間。ただし1 時間を4 5分として換算する）</p> <p>テキスト『リハビリテーション概論』『リハビリテーション医学第4 版』について講義形式での解説後、課題を基にグループワークを行う。</p> <p>○意識、運動障害、感覚障害、高次脳機能障害、心理障害、日常生活動作についての評価の方法、アプローチについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意識：JCS、GCS ・運動障害：麻痺（SIAS Brunnstrom Stage）、筋力（MMT）、関節可動域（ROM）、筋トーマス（MAS）
---	--

<p>3. 各日常生活動作における各関節・筋の運動、および上肢・体幹・下肢の総合関係（3時間）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚障害：感覚（各種感覚評価） ・高次脳機能障害：言語、失行、失認、注意障害、記憶障害 ・心理障害：心理評価 ・日常生活動作：バーセルインデックス、FIM、APDL ●導入講義 15分 ●導入講義 20分 ●フィードバック講義 10分 <p>10：30～10：45 休憩</p> <p>3 各日常生活動作における各関節・筋の運動、および上肢・体幹・下肢の総合関係（3時間。ただし1時間を45分として換算する）</p> <p>テキスト『リハビリテーション概論』『リハビリテーション医学第4版』について講義形式での解説後、課題を基にグループワークを行う。実技を通して学ぶ。実技演習の際に、実技評価を行う。</p> <p>○日常生活動作と運動学（運動動作）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的動作（寝返り、起き上がり、歩行）、姿勢（座位、起立、立位） ・更衣、食事（摂食・嚥下）、排泄、入浴、整容 <p>10：45～11：55 担当：阿部</p> <p>○日常生活動作と運動学（運動動作）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的動作（寝返り、起き上がり、歩行）、姿勢（座位、起立、立位） <ul style="list-style-type: none"> ●導入講義 15分 ●演習 40分 ●フィードバック講義 15分 <p>11：55～13：00 昼食休憩</p> <p>13：00～14：10</p> <p>○日常生活動作と運動学（運動動作）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更衣、食事（摂食・嚥下）、排泄、入浴、整容 <ul style="list-style-type: none"> ●導入講義 15分 ●演習 40分 ●フィードバック講義 15分
---	---

<p>4. 運動学的視点を生活支援に活かす考え方 (3時間)</p>	<p>14:10~14:25 休憩</p> <p>4 運動学的視点を生活支援に活かす考え方 (3時間。ただし1時間を45分として換算する)</p> <p>テキスト『リハビリテーション概論』『リハビリテーション医学第4版』について講義形式での解説後、課題を基にグループワークを行う。実技を通して学ぶ。実技演習の際に、実技評価を行う。</p> <p>○運動学的視点 (ボディメカニクス) からの生活支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本動作 (寝返り、起き上がり、歩行)、姿勢 (座位、起立、立位) と生活支援 <p>14:25~15:35</p> <p>○運動学的視点 (ボディメカニクス) からの生活支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本動作 (寝返り、起き上がり、歩行) <ul style="list-style-type: none"> ●導入講義 15分 ●演習 40分 ●フィードバック講義 15分 <p>15:35~15:50 休憩</p> <p>15:50~17:00</p> <p>○運動学的視点 (ボディメカニクス) からの生活支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姿勢 (座位、起立、立位) と生活支援 <ul style="list-style-type: none"> ●導入講義 15分 ●演習 40分 ●フィードバック講義 15分 <p>17:00~17:15 担当:阿部 一日目の振り返りと事務連絡</p> <p>(2日目)</p> <p>8:45~9:00 オリエンテーション</p> <p>9:00~10:30 担当:阿部</p> <p>5 生活支援の中で活かすリハビリテーションの視点 (2時間)</p> <p>テキスト『リハビリテーション概論』『リハビリテーション医学第4版』について講義形式での解説後、課題を基にグループワークを行う。実技を通して学ぶ。実</p>
------------------------------------	--

		<p>技演習の際に、実技評価を行う。</p> <p>○運動学的視点（ボディメカニクス）からのリハビリテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本動作（寝返り、起き上がり、歩行）、姿勢（座位、起立、立位）とリハビリテーション <p>○自立支援に向けた介護予防（重度化予防、生活動作の維持）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介助方法の選択、補装具の使用、福祉用具の使用、等 <p>●導入講義 20 分</p> <p>●演習 50 分</p> <p>●フィードバック講義 20 分</p> <p>10：30～10：45 休憩</p> <p>10：45～11：30 担当：阿部</p> <p>6 心理的な理解を生活支援に活かす考え方（1時間。ただし1時間を45分として換算する）</p> <p>テキスト『リハビリテーション概論』『リハビリテーション医学第4版』について講義形式での解説後、課題を基にグループワークを行う。</p> <p>○精神的な支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間関係論 ・人間発達論 ・社会的発達論 ・傾聴 ・アサーション <p>●導入講義 15 分</p> <p>●演習 20 分</p> <p>●フィードバック講義 10 分</p> <p>11：30～12：15 担当：阿部</p> <p>7. リハビリテーション職種との連携・協働を行うために必要な視点と知識（1時間）</p> <p>7. リハビリテーション職種との連携・協働を行うために必要な視点と知識（1時間）</p> <p>テキスト『リハビリテーション概論』『リハビリテーション医学第4版』について講義形式での解説後、課題を基にグループワークを行う。</p> <p>○連携、協働</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション技術
--	--	---

	<p>8. 研修の振り返り</p> <p>9. 筆記試験</p> <p>10. 実技試験</p> <p>11. 事務連絡</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携 ・コーチング、ティーチング ●導入講義 15分 ●演習 20分 ●フィードバック講義 10分 <p>12:15～13:15 休憩</p> <p>13:15～13:30</p> <ul style="list-style-type: none"> ●研修の振り返り <p>13:30～14:30</p> <ul style="list-style-type: none"> ●筆記試験 (60分) <p>14:30～15:00 休憩</p> <p>15:00～16:30</p> <ul style="list-style-type: none"> ●実技試験 <p>(2人1組×5組) A・B・Cの3グループに分かれ、5組同時に実技試験</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日常生活動作の運動学的分析 ・起き上がり動作の分析、等…5分 ○運動学的視点からの生活支援 ・起立立位の支援、等…5分 <p>Aの前半5組終了後、Bの前半5組実施、その後Cの前半5組実施、その後Aの後半5組実施、次にBの後半5組実施、そしてCの後半5組実施という順番で実技試験実施。2種目はC後半→B後半→A後半→C前半→B前半→A前半の順番に実施する。</p> <p>16:30～16:45</p> <ul style="list-style-type: none"> ●結果発表の方法、今後の研修の流れ等
<p>研修方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■集合学習 (集合研修) 12時間 ■課題学習 (通信研修) 8時間 <p>先に課題学習 (通信研修) 8時間を行い、その課題 (レポート等) を事前に事務局に提出し、集合学習 (集合研修) 12時間では、その課題学習で取り組んだレポートを基にグループワーク等の演習を交えて進めていく。</p>	
<p>研修時間</p>	<p>20時間 (集合学習として12時間、課題学習として8時間)</p>	
<p>修了要件</p>	<p>課題学習における課題を提出し、集合学習のすべての時間に出席し、終了検定課題 (筆記試験と実技試験) で合格基準を満たしてい</p>	

	<p>ることを確認する。ただし、やむを得ない理由で遅刻・早退がある場合、補講又はレポート提出をもってその不足分を補うこととする。やむを得ない事情による遅刻・早退は30分以内とし、30分を超える遅刻・早退は認めない。</p> <p>① リハビリテーションの理念とICF（国際生活機能分類）の考え方を理解し、生活リハビリテーションの視点を持つことができる。</p> <p>② 関節、骨格筋、神経などの構造に関する知識を活用して運動学的に分析・評価する視点を持つことができる。</p> <p>③ 病的な状態であっても、可能な動作を考え、支援することができる。</p> <p>④ 心理的な知識・技術（人間関係論・コミュニケーション手法等）を活用し、利用者の意欲を引き出す視点を持つことができる。</p> <p>⑤ リハビリテーション職種と連携・協働を行うために必要な視点や知識を習得し、連携・協働できる。</p>
講師要件（講師の選定基準）	<ul style="list-style-type: none"> ・当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験がある。 ・修士課程を修了していることが望ましい。 ・日常業務で介護福祉士と共に働いた経験のあるリハビリテーション専門職（理学療法士・作業療法士等）またはリハビリテーション科専門医（大学講師以上）が望ましい。
(2)受講者について	
受講対象（受講要件）	特になし
修了評価（習得度、研修成果）	筆記試験（試験時間60分。記述式試験。50問程度、100点満点中60点以上で合格）ならびに実技試験（1人につき10分程度）に合格する。
(3)研修の環境条件	
定員（講師の配置基準）	30名 30名に対し講師1名、ファシリテーター2名を配置する。
開催場所（都道府県）	愛知県名古屋市中区三の丸1丁目7-2 桜華会館

(別紙3) 認定介護福祉士研修認証

認証申請する研修の実施体制等 (届出事項)

(1) 研修の実施予定	
実施日	① 2020年3月
	②
	③
開催場所 (会場)	① 桜華会館 (愛知県名古屋市中区三の丸1丁目7-2)
	②
	③
(2) 講師 阿部友和 (理学療法士・工学修士)	
担当、氏名及び略歴	大阪電気通信大学大学院医療福祉工学研究科修士課程修了 修士 (工学)
	日本体育大学健康医療学部非常勤講師
(3) 実施体制	
研修の企画運営の組織 (担当部局・人員)	愛知県介護福祉士会事務局 事務局長1名 事務員1名 会長・副会長1名 認定介護福祉士担当理事2名 協力員 (愛知県介護福祉士会会員) 3名
研修の企画運営に関する諸 規程	愛知県介護福祉士会研修運営に関する規程
研修管理責任者職名	愛知県介護福祉士会会長
研修管理責任者氏名	下山久之
機構問合先部署	一般社団法人愛知県介護福祉士会事務局
機構問合先担当者氏名	会長 下山久之 事務局長 池田久恵
機構問合先電話番号/FAX	電話 052-202-8260 FAX052-202-8280
機構問合先 e-mail アドレス	info@aichi-kaigo.jp
受講問合先部署	一般社団法人愛知県介護福祉士会事務局
受講問合先担当者氏名	会長 下山久之 事務局長 池田久恵
受講問合先電話番号/FAX	電話 052-202-8260 FAX052-202-8280
受講問合先 e-mail アドレス	info@aichi-kaigo.jp
(4) 研修履歴の管理体制	
受講者への付与単位部門	愛知県介護福祉士会 研修事業部
受講履歴の管理方法	愛知県介護福祉士会 研修事業部・事務局により受講路歴をパソコンにて管理する。
受講履歴の証明	科目修了ごとに修了証を発行する。
管理責任者氏名	会長 下山久之 事務局長 池田久恵
管理担当者氏名	事務局長 池田久恵

認定介護福祉士研修 「生活支援のためのリハビリテーションの知識」

時間	テーマ	講義・演習等	備考、留意点
(1日目)	オリエンテーション		
8:45~9:00	オリエンテーション		
9:00~9:45	1. リハビリテーションの 理念	<p>講義形式と演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リハビリテーションの歴史と定義 <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の由来、歴史、定義 ○障害の分類 <ul style="list-style-type: none"> ・障害とは、ICIDH、ICF、国際障害者年、ノーマライゼーション ○リハビリテーション専門職の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・リハ専門医、リハ専門看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士、義肢装具士、ソーシャルワーカー等 ○リハビリテーション関連法規 <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉法、身体障害者福祉法、障害者総合支援法、介護保険法、地域包括ケアシステム等 ●導入講義 15分 ●演習 20分 (レポート課題を相互に紹介し、理解を深めていく。) ●フィードバック講義 10分 	<p>テキスト『リハビリテーション概論』『リハビリテーション医学第4版』</p>
9:45~10:30	2. 心身の評価とアプローチ	<p>講義形式と演習</p> <ul style="list-style-type: none"> ○意識、運動障害、感覚障害、高次脳機能障害、心理障害、日常生活動作についての評価の方法、アプローチについて <ul style="list-style-type: none"> ・意識：JCS、GCS ・運動障害：麻痺（SIAS Brunstrom Stage）、筋力（MMT）、関節可動域（ROM）、筋トーマス（MAS） ・感覚障害：感覚（各種感覚評価） ・高次脳機能障害：言語、失行、失認、注意障害、記憶障害 ・心理障害：心理評価 	<p>テキスト『リハビリテーション概論』『リハビリテーション医学第4版』</p>
			<p>※事前課題を活用し、グループワークを実施する。</p>

10:30~10:45	休憩	<p>・日常生活動作:バーセルインデックス、FIM、APDL</p> <p>●導入講義 15分</p> <p>●演習 20分 (レポート課題を相互に紹介し、理解を深めていく。自分自身の身体と自職場の利用者に即し、理解を深める。)</p> <p>●フィードバック講義</p>	<p>※事前課題を活用し、グループワークを実施する。</p>
10:45~11:55	3. 各日常生活動作における各関節・筋の運動、および上肢・体幹・下肢の総合関係	<p>講義形式と演習</p> <p>○日常生活動作と運動学(運動動作)</p> <p>・基本動作(寝返り、起き上がり、歩行)、姿勢(座位、起立、立位)</p> <p>●導入講義 15分</p> <p>●演習 40分 (課題をもとにグループワークを行う。実技を通して学ぶ。実技演習の際に、実技評価を行う。)</p> <p>●フィードバック講義</p>	<p>テキスト『リハビリテーション概論』『リハビリテーション医学第4版』</p> <p>※事前課題を活用し、グループワークを実施する。</p>
11:55~13:00	昼食休憩		
13:00~14:10	3. 各日常生活動作における各関節・筋の運動、および上肢・体幹・下肢の総合関係	<p>講義形式と演習</p> <p>○日常生活動作と運動学(運動動作)</p> <p>・更衣、食事(摂食・嚥下)、排泄、入浴、整容</p> <p>●導入講義 15分</p> <p>●演習 40分 (課題をもとにグループワークを行う。実技を通して学ぶ。実技演習の際に、実技評価を行う。)</p> <p>●フィードバック講義</p>	<p>テキスト『リハビリテーション概論』『リハビリテーション医学第4版』</p> <p>※事前課題を活用し、グループワークを実施する。</p>
14:10~14:25	休憩		

14:25~15:35	4. 運動学的視点を生活支援に活かす考え方	<p>講義形式と演習</p> <p>○運動学的視点(ボディメカニクス)からの生活支援</p> <p>・基本動作(寝返り、起き上がり、歩行)</p> <p>●導入講義 15分</p> <p>●演習 40分</p> <p>(課題をもとにグループワークを行う。実技を通して学ぶ。実技演習の際に、実技評価を行う。)</p> <p>●フィードバック講義 15分</p>	<p>テキスト『リハビリテーション概論』『リハビリテーション医学第4版』</p> <p>※事前課題を活用し、グループワークを実施する。</p>
15:35~15:50	休憩		
15:50~17:00	4 運動学的視点を生活支援に活かす考え方	<p>講義形式と演習</p> <p>○運動学的視点(ボディメカニクス)からの生活支援</p> <p>・姿勢(座位、起立、立位)と生活支援</p> <p>●導入講義 15分</p> <p>●演習 40分</p> <p>(課題をもとにグループワークを行う。実技を通して学ぶ。実技演習の際に、実技評価を行う。)</p> <p>●フィードバック講義 15分</p>	<p>テキスト『リハビリテーション概論』『リハビリテーション医学第4版』</p> <p>※事前課題を活用し、グループワークを実施する。</p>
17:00~17:15	振り返りと事務連絡	<p>●一日目の振り返り</p> <p>●事務連絡</p>	
(2日目) 8:45~9:00	オリエンテーション		
9:00~10:30	5. 生活支援の中で活かすリハビリテーションの視点	<p>講義形式と演習</p> <p>○運動学的視点(ボディメカニクス)からリハビリテーション</p> <p>・基本動作(寝返り、起き上がり、歩行)姿勢(座位、起立、立位)とリハビリテーション</p> <p>○自立支援に向けた介護予防(重度化予防、生活動作の維持)</p>	<p>テキスト『リハビリテーション概論』『リハビリテーション医学第4版』</p>

10:30~10:45	休憩	<p>・介助方法の選択、補装具の使用、福祉用具の使用、等</p> <p>●導入講義 20分</p> <p>●演習 50分 (課題をもとにグループワークを行う。実技を通して学ぶ。実技演習の際に、実技評価を行う。)</p> <p>●フィードバック講義 20分</p>	<p>※事前課題を活用し、グループワークを実施する。</p>
10:45~11:30	6. 心理的な理解を生活支援に活かす考え方	<p>講義形式と演習</p> <p>○精神的な支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間関係論 ・人間発達論 ・社会的発達論 ・傾聴 ・アサーション <p>●導入講義 15分</p> <p>●演習 20分 (レポート課題を相互に紹介し、理解を深めていく。)</p> <p>●フィードバック講義 10分</p>	<p>テキスト『リハビリテーション概論』『リハビリテーション医学第4版』</p> <p>※事前課題を活用し、グループワークを実施する。</p>
11:30~12:15	7. リハビリテーション職種との連携・協働を行うために必要な視点と知識	<p>講義形式と演習</p> <p>○連携・協働</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション技術 ・多職種連携 ・コーチング、ティーチング <p>●導入講義 15分</p> <p>●演習 20分 (レポート課題を相互に紹介し、理解を深めていく。)</p> <p>●フィードバック講義 10分</p>	<p>テキスト『リハビリテーション概論』『リハビリテーション医学第4版』</p> <p>※事前課題を活用し、グループワークを実施する。</p>
12:15~13:15	昼食休憩		
13:15~13:30	8. 研修の振り返り	●研修の振り返り	

13:30～14:30	9. 筆記試験	●筆記試験（60分）	
14:30～15:00	休 憩		
15:00～16:30	10. 実技試験	<p>●実技試験</p> <p>（2人1組×5組）A・B・Cの3グループに分かれ、5組同時に実技試験</p> <p>○日常生活動作の運動学的分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 起き上がり動作の分析、等・・・5分 <p>○運動学的視点からの生活支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 起立立位の支援、等・・・5分 <p>Aの前半5組終了後、Bの前半の5組実施、その後Cの前半5組実施、その後Aの後半5組実施、次にBの後半5組実施、そしてCの後半5組実施という順番で実技試験実施。2種目はC後半→B後半→A後半→C前半→B前半→A前半の順番に実施する。</p>	
16:30～16:45	11. 事務連絡	●結果発表の方法、今後の研修の流れ等	